

## 麦類の赤かび病を適期に防除しましょう！

本年産麦の生育状況は、**莖立期が平年より3～5日程度早まっています。**そのため、寒の戻りによる幼穂凍死や不稔粒の発生に伴う赤かび病の多発が懸念されます。

防除時期が遅れないように**適期防除を徹底しましょう。**

麦類の赤かび病は、子実収量や品質を低下させる重要病害です（写真1）。本病菌は、人畜に有害なかび毒（DON、NIV等）を産生するため、農産物検査の規格では、食用の全麦種で赤かび粒の混入限度が0.0%を超えないこと、と定められています。

このため、予防的に防除を行い、発生防止に努めることが重要です。



写真1 赤かび病(六条大麦)

### 【防除対策】

- ・表1を参考に、出穂や開花の状況をよく観察し、**ほ場・麦種ごとの防除適期を逃さない**よう、防除を徹底する。
- ・薬剤感受性の低下を防ぐため、FRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する（表2・3）。
- ・不稔粒が発生したほ場は、赤かび病多発のおそれがあるため、追加防除を実施する。
- ・**表1の防除適期は水稲作業の繁忙期であるが、薬剤散布は散布時期が重要なため必ず行う。**

表1 麦種ごとの防除適期

麦種	防除適期	多発のおそれがある場合 (不稔粒発生や登熟期連続降雨など)
二条大麦	穂揃い期7～10日後（葯殻抽出期※1）	1回目の7～10日後に2回目散布
六条大麦	開花始め※2と開花10日後の2回散布	3回目散布
小麦	開花始め※2と開花20日後の2回散布	3回目散布

※1：穎の先端から葯殻(受粉を終えた葯の殻)が押し出されてくる時期

※2：抽出した葯を初めて認めた日



写真2 【二条大麦】  
穂揃い期7～10日後  
(葯殻抽出期)



写真3 【六条大麦】  
開花始め



写真4 【小麦】  
開花始め

※矢印の黒色部分が抽出した葯殻

表2 麦類の赤かび病に登録のある主な薬剤（令和4（2022）年4月6日現在）

農薬名	作物名	希釈倍数 (散布液量)	収穫前日数/ 本剤の使用回数	薬剤系統名	FRAC コード
シルバキュアフロアブル	大麦	2000倍 (60~150L/10a)	14日前まで/2回以内	DMI剤	3
	小麦		7日前まで/2回以内		
ワークアップフロアブル	麦類	2000~3000倍 (60~150L/10a)	7日前まで/3回以内		
チルト乳剤25	大麦	1000~2000倍 (60~150L/10a)	21日前まで/1回		
	小麦		3日前まで/3回以内		
トップジンMゾル	麦類 (小麦を除く)	1500倍 (60~150L/10a)	14日前まで/3回以内 (出穂期以降は1回以内)		
	小麦	1000~1500倍 (60~150L/10a)	14日前まで/3回以内 (出穂期以降は2回以内)		
トップジンM水和剤	麦類 (小麦を除く)	1000~1500倍 (60~150L/10a)	30日前まで/3回以内 (出穂期以降は1回以内)		
	小麦		14日前まで/3回以内 (出穂期以降は2回以内)		
ストロビーフロアブル	麦類	2000~3000倍 (60~150L/10a)	14日前まで/3回以内	QoI剤	11
ミラビスフロアブル	大麦	1500~2000倍 (60~150L/10a)	14日前まで/2回以内	SDHI剤	7
	小麦	1500~2000倍 (50~150L/10a)	7日前まで/2回以内		

注1：必ず農薬容器のラベルをよく読み、使用方法・使用上の注意事項を守る。

注2：薬剤抵抗性の発達を防ぐ観点から、FRACコードが同一のものは連用を避ける。

表3 無人航空機による散布の登録がある主な薬剤（令和4（2022）年4月6日現在）

農薬名	作物名	希釈倍数 (散布液量)	収穫前日数/ 本剤の使用回数	薬剤系統名	FRAC コード		
シルバキュアフロアブル	大麦	16倍 (0.8L/10a)	14日前まで/2回以内	DMI剤	3		
	小麦		7日前まで/2回以内				
ワークアップフロアブル	麦類	10~24倍 (0.8L/10a)	7日前まで/3回以内				
チルト乳剤25	大麦	8倍 (800mL/10a)	21日前まで/1回				
	小麦		3日前まで/3回以内				
トップジンMゾル	麦類 (小麦を除く)	8倍 (0.8L/10a)	21日前まで/3回以内 (出穂期以降は1回以内)			MBC剤	1
	小麦		14日前まで/3回以内 (出穂期以降は2回以内)				
ミラビスフロアブル	大麦	8~16倍 (800mL/10a)	14日前まで/2回以内	SDHI剤	7		
	小麦		7日前まで/2回以内				

注1：必ず農薬容器のラベルをよく読み、使用方法・使用上の注意事項を守る。

注2：薬剤抵抗性の発達を防ぐ観点から、FRACコードが同一のものは連用を避ける。

詳細は、農業環境指導センター（TEL 028-626-3086）までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせは「栃木県農政部ツイッター(@tochigi\_nousei)」、農業環境指導センターホームページ (<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/index.html>) でもご覧になれます。

